

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	54	大学等名	武蔵野大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本事業に選定されたことにより、これまで実施してきたアクティブ・ラーニング（AL）や学外学修プログラムを再定義化し、本大学が目指す、自立的学習者育成、アクティブな学びをより具体化させていることは評価できる。
- ・学長直轄の組織の「教育改革推進会議」を軸に、学内の各委員会と連携し、学外学修を推進するための基盤整備や長期学外学修プログラムの学士課程での連続性を図り、体験を通して得られる問題発見能力、解決能力を定着させるための努力を行っていることは評価できる。
- ・学内の委員会（IR委員会）と外部評価委員会が連携して評価を行い、プログラムの質の向上に努めていることは評価できる。
- ・各年度の計画に基づき、課題の解決を図りながら着実に事業が実施されている。特に、学外学修に多くの学生が参加できるように、4学期制の導入等の改革はもとより科目履修の調整や運営をスムーズに行うための教職員の連携体制を拡充させていることは評価できる。また、平成30年度から「教育企画開発センター（仮）」を設置し、全学横断的なALを展開する予定であり、さらに、大学法人全体の教育活動と位置付け、学外学修活動を展開するための「FS基金」の設置を検討するなど、補助期間終了後の事業継続に向けた取組も進んでいることは評価できる。
- ・全国各地の連携先と協働し、学生の活動記録を随時SNSに投稿することにより、教育効果とPR効果を得ようとしていることは評価できる。